

石川県の紹介

位置と地域の特徴

石川県は日本本土のほぼ中央に位置し、西南から東北に向かって細長い形をしています。

本県は「金沢」、「能登」、「加賀」、「白山」の4地域に大きく分かれ、それぞれの地域が固有の文化・風習を有しています。

- 加賀百万石の風情を奏でる「金沢」
 - 日本の原風景を感じる「能登」
 - 1300年の歴史ある良質な温泉を有する「加賀」
 - 日本三名山の白山と山村文化を持つ「白山」
- 【人口 1,166,656人、面積 4,185.54km²】



石川の歴史



■ **アジア大陸との交流**……三方が海に面している能登半島では、古くからさかんに大陸との交流が行われてきました。特に渤海からの使者は、度々この地を訪れ、文化交流が行われました。

■ **百姓の持ちたる国**……1488年、加賀国で起こった一向一揆により、この地域は約100年間にわたって、「百姓の持ちたる国」と評されました。

■ **加賀百万石**……安土桃山時代、前田利家がこの地を治め、「加賀藩」となりました。江戸時代には、120万石の大都市になり、江戸末期には人口が日本4位の都市へと発展しました。

■ **石川県へ**……明治維新後、廃藩置県がおこり、様々な変遷ののち、1873年県庁が金沢に移され、現在の「石川県」のおおよその形ができました。

石川の文化

■ **石川の文化**……加賀藩は、初代の利家以来、歴代藩主が文化政策を推し進めたこともあり、全国有数の文化都市となりました。国指定伝統的工芸品は輪島塗、金沢箔をはじめ、10品目に上り、また、「茶道・華道をたしなむ人の割合」が全国1位となるなど、茶の湯文化が栄えています。

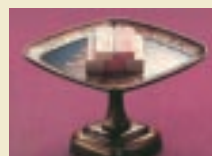
■ **菓子王国いしかわ**……この地で栄えた茶の湯文化は、金沢に和菓子の発展を及ぼしました。金沢は京都、松江とともに「日本三大菓子処」と呼ばれ、和菓子の生産量は京都に次いで全国2位を誇っています。



輪島塗



金沢箔



落雁



五色饅頭